

**製品名: TRPV4 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19330**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	98kDa

**抗原情報**

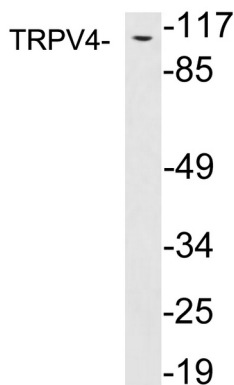
遺伝子名	TRPV4
別名	TRPV4; VRL2; VROAC; Transient receptor potential cation channel subfamily V member 4; TrpV4; Osm-9-like TRP channel 4; OTRPC4; Transient receptor potential protein 12; TRP12;Vanilloid receptor-like channel 2; Vanilloid receptor-like protein 2; VRL-2; Vanilloid receptor-related osmotically-activated channel; VR-OAC
遺伝子 ID	59341.0
SwissProt ID	Q9HBA0
免疫原	抗血清はヒト TRPV4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 417-466

## 背景

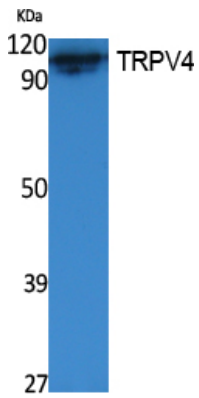
一過性受容体電位カチオンチャンネルサブファミリー V メンバー 4 (TRPV4) ホモサピエンスこの遺伝子は、イオンチャンネルの一過性受容体電位 (TRP) スーパーファミリーの OSM9 類似一過性受容体電位チャンネル (OTRPC) サブファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、Ca<sup>2+</sup>透過性の非選択性カチオンチャンネルで、全身浸透圧の調節に関与していると考えられています。この遺伝子の変異は、脊椎骨幹端異形成症およびメタトロピック異形成症、遺伝性運動感覚ニューロパチー IIC 型の原因です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2010 年 4 月]、疾患: TRPV4 の欠陥は、ブラキオルミア 3 型[MIM: 113500] (ブラキラキアとも呼ばれる) の原因です。短体幹症は、体幹の短縮、側弯症、軽度の低身長を特徴とする、臨床的および遺伝的に不均一な骨格異形成症のグループです。タイプ 3 の短体幹症は、重度の脊柱後弯症と扁平化した不整頸椎を伴う常染色体優性遺伝形式です。機能: 非選択的カルシウム透過性陽イオンチャンネルで、浸透圧感受性および機械受容性に関与していると考えられます。生理的範囲内での低張性曝露による活性化は、外向き整流作用を示します。低 pH、クエン酸エステル、ホルボールエステルによっても活性化されます。細胞内 Ca<sup>2+</sup>の増加は電流を増強します。チャンネルの活性は、負のフィードバック機構を伴うカルモジュリン依存性メカニズムによって制御されていると考えられます。類似性: 一過性受容体ファミリーに属します。TrpV サブファミリー。類似性: 3 つの ANK リピートを含む。細胞内局在: 推定ホモテトラマーの組み立ては主に小胞体で起こる。サブユニット: ホモテトラマー (推定)。アイソフォーム特異的に自己会合する。アイソフォーム 1/A と 5/D はオリゴマーを形成できるが、アイソフォーム 2/B、4/C、6/E はオリゴマーを形成できない。カルモジュリンと相互作用する。Map7 および Src ファミリーのチロシンキナーゼ (LYN、SRC、FYN、HCK、LCK、YES) と相互作用する。

## 研究分野

## 画像データ



TRPV4 抗体を使用した PC12 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



TRPV4 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。